ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：隅田　学
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2023.10.15
NO.264

科学教育研究レター



目　次

■ **理事会だより** ……2
第 304 回理事会報告
第 47 回定時代議員総会報告
合同会議報告

■ **年会** ……7
第 47 回年会開催報告
第 48 回年会開催案内（第 1 次）

■ **支部･研究会だより** ……9
2023 年度研究会開催のお知らせ

■ **国際交流委員会だより** ……12
第 47 回日本科学教育学会年会　国際ランチョン・ミーティング開催報告
2023 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）開催予告
国際学会参加報告(69)
国際学会開催情報

■ **若手活性化委員会だより** ……16
第 47 回日本科学教育学会年会報告
2023 年日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）予告
若手研究者，「初心」を語る

■ **編集委員会だより** ……20
特集のお知らせ（再掲）
特集のお知らせ
「科学教育研究」編集状況報告

■ **広報委員会からのお知らせ** ……28

日本科学教育学会第 304 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日　時　　2023 年 9 月 18 日(月・祝) 15:15~17:15
会　場　　ハイフレックスでの開催　対面：愛媛大学　A 会場（共 A11）
出席者　　会長 隅田学，副会長 清水美憲，竹中真希子
理事　加藤久恵，松原憲治，寺田光宏，松浦拓也，加納　圭，山口悦司，三宅志穂，辻　宏子，雲財　寛，稲田結美，秋田美代，山下修一，土佐幸子，瀬戸崎典夫，大谷　忠，森田裕介，大貫麻美，舟橋友香
監事　稲垣成哲
事務局長　益子典文
幹事　山本容子，塩澤友樹
顧問　小川義和
年会実行委員長　向　平和
オブザーバー　谷塚光典

１．議事要録(案)の承認
○第 303 回理事会議事録(案)を承認した．

２．第 304 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果
○事務局からの発議により，23/7/31 までに入会を希望した 9 名と正会員からシニア会員への変更を希望した 1 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2023 年 8 月 6 日).
○事務局からの発議により，23/8/31 までに入会を希望した 5 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2023 年 9 月 3 日).

３．報告事項
1）庶務・事務局
○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応について報告があった．

2）経理・会員
○住所不明者について報告があった．
○決算の承認過程について報告があった．

3）機関誌編集

○機関誌の編集状況及び特集号について報告があった.

4）学会賞
○学会賞の賞状における年号表記について報告があった.

5）支部・研究会
○2023 年度研究会開催計画日程について報告があった.
○『科学教育研究報告』における編集作業について報告があった.

6）国際交流
○第 47 回年会における国際ランチョン･ミーティングの開催に向けた準備状況について報告があった.
○2023 年度 JSSE 英語による研究会（国際交流委員会開催）の準備状況について報告があった.

7）年会企画
○第 47 回年会（愛媛大会）の発表件数，参加申込者数を含めた開催状況について報告があった.

8）広報・学会 IT
○学会 HP の英語版における情報更新について報告があった.

9）若手活性化
○第 47 回年会における若手活性化委員会の開催状況について報告があった.
○若手活性化委員会担当の研究会開催の準備状況について報告があった.

10）会長
○中西印刷との業務委託について報告があった.

11）その他
○50 周年を第 50 回年会のタイミングとすること，及び 50 周年記念企画準備 WG の検討状況について報告があった.

４．協議事項
1）経理・会員
○除籍候補者 41 名と退会希望者 61 名の説明があり承認された.
現在会員数　1403 名（正会員 1192 名，学生会員 130 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，
賛助会員 3 名，シニア会員 55 名）（2023 年 9 月 12 日付）
前回会員数　1404 名（正会員 1202 名，学生会員 124 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，
賛助会員 3 名，シニア会員 52 名）（2023 年 6 月 5 日付）

2）機関誌編集
○編集委員の追加について説明があり承認された.

○EBSCOhost 契約に向けた弁護士相談について説明があり承認された.

3）年会企画

○第 48 回年会の準備状況について説明があり，開催日程について確認された.

4）広報・学会 IT 化

○広報委員会委員の交代・追加について説明があり承認された.

○2024 年度までの「科学教育研究レター」の発行日程について説明があり承認された.

５．次回以降の理事会予定

・第 305 回:2023 年 11 月 11 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
・第 306 回:2024 年 3 月 16 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
・第 307 回:2024 年 6 月 15 日(土) 14:00～17:00 場所: 株式会社内田洋行 新川第２オフィス
・第 308 回:日時未定 場所: ネット会議
・第 309 回:2024 年 9 月 13 日(金) 時間未定 場所: 函館工業高等専門学校
・第 310 回:2024 年 9 月 15 日(日) 時間未定 場所: 函館工業高等専門学校

一般社団法人日本科学教育学会第 47 回定時代議員総会　報告（案）

日 時：2023 年 9 月 19 日（火）14:05～15:50
場 所：ハイブリッドでの開催　　対面：愛媛大学 S 会場（グリーンホール）

次 第　　(進行：加藤久恵　理事)

１．開会の辞　　(清水美憲　副会長)
２．第 47 回年会実行委員長挨拶　　(向平和　実行委員長)
３．会長挨拶　　(隅田学　会長)
４．議長選出
　定款第 36 条により，隅田学会長を議長に選出
５．議事録署名人委任　　(隅田学　会長)
　議事録署名人を，向平和（愛媛大学），下郡啓夫（函館工業高等専門学校）の両会員に委任することを承認した.
６．審議　　(議長：隅田学　会長)
　代議員総会出席者 32 名，委任状 7 通で代議員総会成立を確認した.　(松原憲治 理事)
　１）第 1 号議案の提案　　(松原憲治・寺田光宏　理事)
　2022 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案行われ，第 1 号議案は代議員 38 名（出席者 31 名，委任状 7 名）が賛成し，承認可決された.
　２）監査報告　　(稲垣成哲　監事)
　監査の結果，一般社団法人日本科学教育学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨が報告された.
　３）第２号議案の提案　　(松原憲治・松浦拓也　理事)
　2023 年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ，第２号議案は代議員 37 名（出席者 30 名，委任状 7 名）が賛成し，承認可決された.
　４）第３号議案の提案　　(隅田学　会長)
　役員選任等に関する定款の変更及びその変更理由についての説明と提案が行われ，第３号議案は代議員 36 名（出席者 29 名，委任状 7 名）が賛成し，承認可決された.
７．議長解任
８．表彰
　１）学会賞選考委員会での選考経過の報告　　(清水美憲・三宅志穂　理事)
　２）表彰　　(隅田学　会長)
　功労賞
　・飯島康之（愛知教育大学，特別教授）
　奨励賞
　・中村大輝（宮崎大学）
　・石橋一昴（岡山大学）

・村田翔吾（日本体育大学）
・長沼祥太郎（九州大学未来人材育成機構）
・塩澤友樹（椙山女学園大学）

論文賞

・後藤みな（山形大学）
・川上貴（宇都宮大学共同教育学部）

年会発表賞

・平林真伊（山形大学），康孝民（筑波大学人間総合科学学術院）
・加藤幸太（千葉大学教育学部附属中学校），辻山洋介（千葉大学），柴田義之（南風原町立南星中学校）
・中村大輝（宮崎大学），松浦拓也（広島大学）
・奥山英登（国立アイヌ民族博物館）

９．次年度第 48 回年会実行委員長挨拶　(下郡啓夫　実行委員長)
10．会長挨拶　(隅田学　会長)
11．閉会の辞　(竹中真希子　副会長)

合同会議報告

日 時: 2023 年 9 月 18 日（金）17：30－19：30 愛媛大学 A 会場（共 A11）及びネット会議の併用

2023 年度顧問・理事・代議員・支部長合同会議は，会長，副会長(2 名)，代議員(31 名)，顧問 (2 名)，支部長(8 名)，理事(18 名)，事務局長，監事，幹事（2 名），編集委員長，第 47 回年会実行委員長，第 48 回年会実行委員長，年会企画委員長の実出席者数 46 名（ただし，役員役職の重複あり）が出席して開催された．最初に,第 47 回年会の向年会実行委員長から歓迎の挨拶，会長から本学会の近況報告及び開会の挨拶，参加者から自己紹介があった．次に，2022 年度事業報告及び収支決算書についての説明，2023 年度事業計画及び収支予算（案）についての説明，役員選任等に関する定款の変更についての説明，50 周年記念企画準備 WG の検討状況についての説明があり，意見交換がなされた．最後に，第 48 回年会の下郡年会実行委員長から次回の年会（函館大会）のアナウンスがなされた．

第 47 回年会開催報告

日本科学教育学会第 47 回年会は，2023 年 9 月 18 日（月・祝）～20 日（水）の日程で，文部科学省，愛媛県教育委員会，松山市教育委員会および愛媛大学の後援を得て，愛媛大学城北キャンパス共通教育棟 A・グリーンホールにて開催された．

年会の開催をお引き受けしたのはコロナ禍に入ったすぐの頃で，当時，年会企画副委員長を担当しており，先が見えない状況で他の大学にお願いしにくいこともあり，隅田会長と相談して決定したことを覚えている．ただし，私が実行委員長を拝命したのは，隅田会長が当時会長就任前であったためで，青天の霹靂であったが…．コロナ禍に入り，第 44 回年会ではオンデマンド配信の導入，第 45 回年会では同期型オンライン開催，第 46 回年会では一部対面実施を導入したハイブリッド開催という流れから，第 47回年会ではインタラクティブセッション以外のハイフレックス開催とした．インタラクティブセッションについては前年度 1 件とオンラインでの実施には不適だと考えたためである．最終的には 457 名の参加がありスタッフを合わせると 500 名を超える参加となった．そのうちオンライン参加は 100 名程度であった，この参加状況を鑑みると今回の開催形式は妥当な方法であったのではないかと考えている．新会長のもと，本年会が with/after コロナの年会のあり方のターニングポイントになれば幸いである．

第 47 回年会では，５年ぶりに「産官学民が協働する科学教育の新展開」というテーマを設定し，隅田会長がコーディネーターで「STE (A)M が切り拓く科学教育の可能性」をテーマとしたシンポジウムを企画していただいた．また，発表件数は一般研究 127 件，インタラクティブ８件，課題研究 24 件（発表数 118 件）と，ありがたいことに多くの申し込みがあった．発表件数が多い上にハイフレックス開催であるので，一般研究発表については１セッション４件を基本として余裕のある設定とした．そのため，発表会場が想定より多くなり，不便なところもあったかもしれないが，ご容赦いただきたい．やはり対面での実施は深い交流を促し，新しいイノベーションを生み出すことにつながったのではないかと期待している．その一方で，オンライン参加は，学校教員や様々な業務に追われる中にあっても，隙間時間での参加が可能となる．双方の相乗効果で，科学教育の推進につながることを期待する．不易な部分を大切にしながら流行にも対応することが重要であると考えている．ただし，持続可能性があるかを考慮する必要がある．

私は 2012 年より年会企画委員を担当させていただいた．当初，若手の会の運営を企画しながら本学会に馴染んでいったと感じている．その後，本学会に若手活性化委員会が立ち上がり，年会のチュートリアルやキックオフパーティなどで多くの若手研究者と交流できたことが多くの刺激と財産になっている．また，歴代の年会企画委員会委員長，担当理事，委員の先生方と意義深い交流ができた．多くの年会の開催に関わることができ，有意義な経験をさせていただいたと感謝している．さらに今回実行委員として年会企画委員会の存在のありがたさを再認識しているところである．

末筆ながら，参加された皆様，年会企画委員会の先生方，年会実行委員を担当された四国支部および愛媛大学教育学部科学教育サブコースの先生方，学生スタッフ，関係各所の皆様に感謝申し上げる．

日本科学教育学会第 47 回年会実行委員会　委員長　向　平和

第 48 回年会 開催案内（第 1 次）

1．日程：2024 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）（3 日間を予定）

2．会場：函館工業高等専門学校
（〒042-0953 北海道函館市戸倉町 14-1）
https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/access/

3．第 48 回年会実行委員会
委 員 長　下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

4．年会企画委員会
委 員 長　山本智一（兵庫教育大学）
副委員長　川上　貴（宇都宮大学），服部裕一郎（岡山大学）
幹　　事　神山真一（大阪体育大学）
担当理事　瀬戸崎典夫（長崎大学），大谷忠（東京学芸大学）
委　　員　石橋一昴（岡山大学），江草遼平（千葉商科大学），
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），
木村優里（明治学院大学），小泉健輔（群馬大学），
中原久志（大分大学），畠山　久（東京工業大学），
福田博人（岡山理科大学），増田有紀（東京成徳大学），
向　平和（愛媛大学），山中真悟（福山市立大学），
山本輝太郎（金沢星稜大学）

2023 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	2023 年 11 月 4 日（土）	終了しました	オンライン開催
若手活性化委員会	2023 年 12 月 9 日（土）	2023 年 10 月 30 日（月）	九州大学
北陸甲信越支部	2024 年 3 月 9 日（土）	***	山梨大学
北関東支部	2024 年 3 月 16 日（土）	***	オンライン開催
四国支部	2024 年 6 月 1 日（土）	***	高知大学 （朝倉キャンパス）
中国支部	2024 年 6 月 22 日（土）		島根大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので，ご確認ください．
※右の QR コードより，学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます．
https://jsse.jp/1-3

2023 年度　第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会）

［テーマ］Science Education from Global Perspectives
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］2023 年 11 月 4 日（土）　9：00～12：00
［会　場］オンライン開催
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます．
参加費は無料です．なお，オンライン開催（試行）のため，参加をご希望の方は，2023 年 11 月 1 日（水）までに，下記 URL より，あらかじめ参加申込をいただきますよう，お願いいたします．
11 月 2 日(木)以降にオンライン開催の ZOOM URL を直接ご連絡いたします．
◎参加申込 URL：https://forms.gle/1k8WZoq7STN8D6KP8
また，研究会当日の録音，録画はご遠慮ください．
［問い合わせ先］国際交流委員会・委員長　土佐幸子
〒950-2181　新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地　新潟大学教育学部
Tel/Fax (025-262-7147)
E-mail：stosa(atmark)ed.niigata-u.ac.jp

多数の方々の申込をお待ちしております．

日本科学教育学会　国際交流委員会　委員長　土佐　幸子

2023 年度　第２回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会）

［テーマ］次世代の科学教育研究

［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会

［日　時］2023 年 12 月 9 日（土）　12：30～18：00（予定）

［会　場］九州大学　伊都キャンパス

〒819-0385　福岡県福岡市西区元岡 744

※一部オンラインで開催します.

［対　象］会員，教員，学生，社会人

［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます.

参加費は無料です．参加申し込みは，対面/オンラインともに，下記 URL より受け付けます．当日でも大丈夫です.

◎参加申込 URL：URL：https://forms.gle/7SXRet5aVaUme2WV9

ただし，情報交換（9 日夜）への参加を希望される場合は，11/9（木）までにお申し込みください（お店におおまかな人数を伝える必要があるため例年より早めの設定としています．これ以降も受付可能の予定です）.

また，研究会当日の録音，録画はご遠慮ください.

［問い合わせ先］若手活性化委員会・幹事　長沼　祥太郎（九州大学）

E-mail: naganuma.shotaro.062(atmark)m.kyushu-u.ac.jp

［発表申込］

発表申込は，下記 URL よりお願いいたします.

◎発表申込 URL：https://forms.gle/7SXRet5aVaUme2WV9

発表申込締め切りは，2023 年 10 月 30 日（月）です.

［原稿提出］

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください.

＜URL：https://jsse.jp/1-3/115-2 ＞

研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください.

＜URL：https://jsse.jp/1-3/125-2 ＞

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締め切りは，2023 年 11 月 20 日（月）です.

次のウェブサイトから投稿してください.

＜URL：https://jsse-kenkyukai-form.jp/ ＞

※研究会情報のプルダウンメニューで「若手活性化委員会」を選んでください.

投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます. このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください. アドレスの(atmark)の部分は＠です.

原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります．また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください.

［表　彰］当日の発表の中から，優秀な研究発表に対して「ベストプレゼンテーション賞」を授与します．本研究会の研究発表におけるベストプレゼンテーション賞の受賞者は，下記の条件(1)，(2)，(3)を満たすものとします.

(1) 本研究会における研究発表の登壇者であること．
(2) 正会員または学生会員であること．ただし，非会員が受賞候補となった場合には，本学会への入会の意思を確認し，入会の意思が示された場合には受賞者とする．
(3) 以下の(a)，(b)，(c)のいずれかを満たしていること．
(a) 研究発表日時点で，39 歳以下である．
(b) 研究発表日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．
(c) 研究発表日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．
(※) 研究発表日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

［企　画］ワークショップを企画しております．詳細は，決定し次第追ってご連絡いたします．

［情報交換会］12 月 9 日（土）の夜（18:00-21:00）に情報交換会を計画しています．奮ってご参加ください．
※今年度は，前日夜ではなく，研究会当日夜を予定しております．
※社会状況等により変更や中止になる可能性があります．

［その他］九州大学伊都キャンパス内に託児室を設置いたします．詳細は，研究会 URL をご覧ください．本研究会で研究発表を行うことで，学会機関誌『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」に論文を投稿する条件の一部を満たすことができます．特集の投稿募集の詳細につきましては，学会 Web サイトをご確認ください．
〈https://jsse.jp/15-2/48-4 〉

多数の方々の申込をお待ちしております．

日本科学教育学会　若手活性化委員会委員長　山本輝太郎（金沢星稜大学）

第 47 回日本科学教育学会年会　国際ランチョン・ミーティング
開催報告

日本科学教育学会第 47 回年会において，2 日目の 9 月 19 日（火）12:50〜13:45 に，国際ランチョン・ミーティングをハイブリッド形式で開催しました．タイトなスケジュールの中でしたが，委員も含め 23 名の方にご参加いただきました．

今回は University of Ghent の Teaching Fellow である Dr. Sarah Haas をオンラインでお招きし，「Scientific Storytelling」と題して，効果的に論文を書くためのポイントについてワークショップを行いました．論文は基本的に，①Situation，②Problem，③Response，④Evaluation の 4 つで構成されることを基に，参加者は実際に書いてみて参加者同士で見せ合うなど，大変有意義な場となりました．ワークショップの進行に合わせたグループディスカッションでは，参加者それぞれの体験談等の共有や意見の交換がなされ，和やかに会が進行しました．

また，国際交流委員会が 11 月 4 日（土）に開催する英語による研究会（2023 年度第 1 回研究会）の案内も行われました．英語での研究会は 3 回目の開催となります．会員の皆様のご参加をお待ちしております．詳しくは，次ページの開催案内をご参照ください．

国際交流委員会では毎年，年会期間中の昼食時間帯にランチョン・ミーティングを開催し，会員同士の交流を通して，国際的な研究活動のきっかけ作りを行っています．次年度の第 48 回年会でも開催予定です．企画についてご要望などありましたら，国際交流委員会にお寄せください．

最後になりましたが，今回のランチョン・ミーティングの開催にあたりご協力頂いた年会実行委員会，年会企画委員会，広報委員会の皆様，参加者の皆様に感謝申し上げます．





担当：土佐幸子（新潟大学）

2023 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）
開催予告

2023 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催　英語による研究会）を 2023 年 11 月 4 日（土）にオンライン（Zoom 利用）にて開催します．この研究会は，科学教育研究について，会員の皆様が英語で発表する場を設け，国際的な発信を促すとともに国際交流を活発化することを目的として，論文掲載，一般発表，および講演をすべて英語で行います．

これまで国際学会等に参加したことがない方でも安心してご参加いただけるように，一般発表ではトラブル時など日本語でサポートできるように準備をしていますので，多数の皆様の積極的なご参加をお待ちしております

〇日時：2023 年 11 月 4 日（土）9:00-12:00　（予定）
〇開催方法：Zoom によるオンライン開催
〇研究会のプログラム概要

＜海外の研究者によるゲストトーク＞
下記 2 名の研究者をお迎えし，ゲストトークを行ないます．

- Professor David Anderson (Department of Curriculum & Pedagogy, The University of British Columbia),
  Title: Flexible and adaptive methodological approaches for researching learning in informal science contexts
- Professor David Wagner (Faculty of Education, University of New Brunswick),
  Title: Forms of gatekeeping in mathematics education and implications for action

＜英語による一般発表＞
英語による研究発表を行います．
なお，研究会終了後に情報交換会の開催も予定しております．

〇参加申し込みについて
参加を希望される方は，学会 Web サイトの本研究会ページ（「日本科学教育学会 2023 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催）」）に記載しております「申し込み先 URL」より申し込みをお願いいたします．なお，発表申し込みは締め切りました．

研究会 URL および申し込み先 URL は下記の通りです．
参加申し込み締切りは 2023 年 11 月 1 日（水）です．

・研究会 URL：日本科学教育学会 2023 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催）
https://jsse.jp/workgroup/2023-01
・参加申し込み先 URL：
https://forms.gle/1k8WZoq7STN8D6KP8

国際学会参加報告(69)

The 15th Conference of the European Science Education Research Association (ESERA2023)

2 年に 1 度開催されている European Science Education Research Association（ESERA）が対面を基本としたハイブリット形式で，2023 年 8 月 28 日から 9 月 1 日にかけて，トルコのカッパドキアの Nevşehir Hacı Bektaş Veli 大学で開催された．

695 件の口頭発表，150 件のポスター発表，54 件のシンポジウム，20 件のワークショップ，2 件のパネルセッション，5 件の基調講演が実施され，ヨーロッパやアメリカを中心に，対面・オンラインあわせて約 2 千人が参加した．今回は世界 65 ヶ国以上の国と地域から参加があり，さらに 5 つの若手研究者向けセッションが新規で開催されるなど，非常に盛会であった．

実施形式は，対面を基本としながらも，基調講演などはオンライン配信も行われ，最終日の午後には，オンラインのみのセッションも開催された．

次回は，2025 年にコペンハーゲンにて，ハイブリッド開催されることが発表された．また，サマースクールは 2024 年にエストニアで開催される．いずれも詳細は未定である．





（千葉大学教育学部・大嶌竜午）

国際学会開催情報

2023 年

16th annual International Conference of Education, Research and Innovation (ICERI2023)

開催地：Seville, Spain

期間：2023 年 11 月 13 日-11 月 15 日

https://iated.org/iceri/

2024 年

2024 ASTE Annual Conference

開催地：New Orleans, LA, USA

期間：2024 年 1 月 10 日-1 月 13 日

https://theaste.org/meeting/callforproposals/

ICMI Study 26: Advances in Geometry Education

開催地：Reims, France

期間：2024 年 4 月 23 日-4 月 26 日

https://icmistudy26.sciencesconf.org/

International Science Education Conference 2024

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 24 日-6 月 26 日

発表エントリー締切り：2023年11月28日

https://isec2024singapore.org/

International STEM EDUCATION Conference 2024 Singapore

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 26 日-6 月 28 日

発表エントリー締切り：2023年11月28日

https://istem-ed2024singapore.org/

The 15th International Congress on Mathematics Education (ICME-15)

開催地：Sydney, Australia

期間：2024 年 7 月 7 日-7 月 14 日

https://icme15.org/

第 47 回日本科学教育学会年会　報告

第 47 回年会では若手活性化委員会によるチュートリアルとして，「あなたの推し研究／文献を教えてください！」を実施しました．本企画は，自身の研究や教育実践，人生観やキャリアなどに影響を与えた「推し」の研究／文献などを参加者間で共有することで，参加者間の交流の輪を広げたり，自分の関心・分野を見つめ直すきっかけにしたいという意図で実施しました．当日，第一部では複数分野の登壇者（下記参照）からさまざまな「推し研究」が紹介され，第二部では各参加者の推し研究について，小グループに分かれた意見交流が行われました（オンライン合わせて 50 名程度の参加者）．

参加者からは「たくさんの方々の推し本を知る中で，その人のバックグラウンドが垣間見える部分がたくさんあり，今まで遠いと思っていた研究者の姿がよりクリアになりました」（修士課程院生）や「初めての参加で緊張していましたが，楽しく交流することができました」（博士課程院生）などの感想や，「前半のシンポジウムの方向性がもう少し焦点化されているとより深い理解につながったように思います．後半のグループワークは盛り上がったので，もう少し時間が欲しかったです」（大学教員）といった次への企画につながる貴重な意見が聞かれました．ご参加いただいた皆様，本当にありがとうございました．

なお，第一部のご登壇者の先生方の「推し」研究紹介については，先生方の許諾を得たうえで，Youtube 上で一般公開する運びとなりました．JSSE 若手活性化委員会の運営する下記のチャンネルから閲覧可能ですので，会員のみなさまも動画の閲覧やチャンネルご登録をいただければと思います．今後，コンテンツは拡充予定です．

＜登壇者一覧および動画 URL（敬称略）＞
岡本紗知（大阪大学）　袴田綾斗（高知大学）
雲財寛（東海大学）　小坂那緒子（国立教育政策研究所・日本学術振興会）

＜日本科学教育学会　若手活性化委員会 YouTube チャンネル＞
https://www.youtube.com/@user-ms7sl5ko5j

＜当日の会場の様子＞



若手活性化委員会は本学会の若手会員の研究に寄与する企画や取り組みを実施します．年会や若手活性化主催研究会などで実施してほしい企画のアイデア等がありましたら，若手活性化委員会の Facebook（https://www.facebook.com/jssewakate/）や関係者等を通してお気軽にご連絡ください．
複合領域として，多様なバックグラウンドをもつ研究者が集う本学会において，若手活性化委員会の企画が若手研究者同士の積極的な交流の場として機能できれば幸いです．

（若手活性化委員会 委員長：山本輝太郎）

2023 年日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）予告

若手活性化委員会が担当する研究会は，2023 年 12 月 9 日（土）に，九州大学にて開催します．

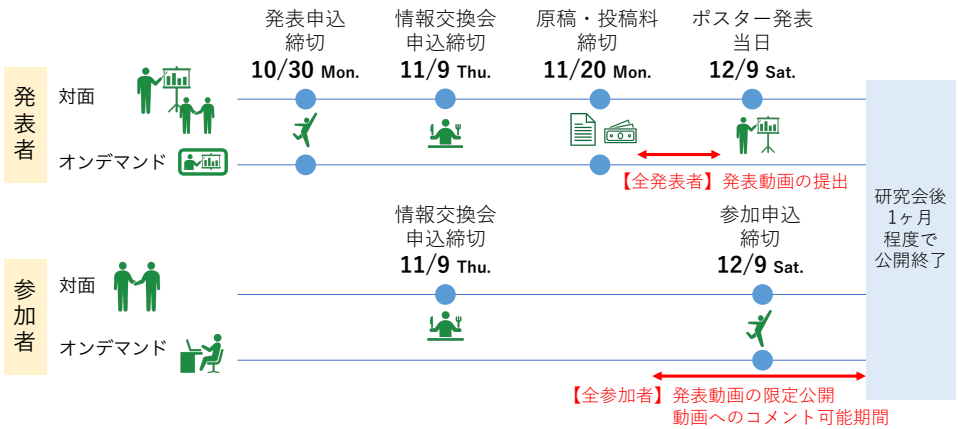
＜発表案内＞
・発表はすべてポスター発表形式で行います．
・運営の都合上，会場のポスター発表の様子をオンラインで配信することは致しません．
・発表申し込み時に，「対面発表」「オンデマンド発表」のどちらかを選択することができ，**いずれの場合でも，事前に発表動画（10~15 分程度）を提出**していただきます．
（詳細は学会 HP，申込者へのメールなどで別途お知らせします）．
・発表動画の提出後，研究会参加者に向けて発表動画の公開を行います．当該動画の公開後，参加者からのコメントに対するオンライン上でのディスカッションが可能です．
・オンデマンド発表の場合，発表動画の公開，発表予稿の提出をもって本研究会での発表とみなします．なお，ポスター発表はできませんが，オンデマンド発表へ申し込まれた方も，当日会場に来て研究会にご参加いただくことは可能です．

＜発表申込／締切など＞
発表を希望される方や研究会に参加される方は，学会 Web サイトの本研究会ページ（「2023 年度第 2 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）」）に記載されている発表・参加申込み URL よりお申込をお願いいたします．研究会 URL は下記の通りです．
多くの皆様の発表申込をお待ちしております．

・研究会 URL：2023 年度第 2 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）
https://jsse.jp/workgroup/2023-02
・発表／参加申込 URL：https://forms.gle/7SXRet5aVaUme2WV9
・発表申込締切は，**2023 年 10 月 30 日（月）**です．
・原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，**2023 年 11 月 20 日（月）**です．
・発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります．
・発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします．

＜情報交換会＞
12 月 9 日（土）の夜（18:00-21:00）に情報交換会を計画しています．奮ってご参加ください．
※今年度は，前日夜ではなく，当日夜を予定しております．

ご不明な点につきましては，以下の問い合わせ先までメールにてご連絡ください．
・問い合わせ先：若手活性化委員会・幹事　長沼祥太郎（九州大学）
E-mail: naganuma.shotaro.062(atmark)m.kyushu-u.ac.jp



＜若手特集／サブミッション・アドバイザリーボード＞

本研究会は学会機関誌『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」と連携しています．若手活性化委員会では本特集への投稿を促進するために，「サブミッション・アドバイザリーボード(SAB)」と呼ばれる下部組織を設置し，希望者に対して発表原稿に対するコメントを送信する予定です．サブミッション・アドバイザリーボードの取り組みにつきましては，下記の URL を ご覧ください．
https://jsse.jp/15-2/48-4

＜その他＞

九州大学伊都キャンパス内に託児室を設置いたします．また，研究会では若手活性化委員会による企画を開催する予定です．研究会に関わる情報は学会 HP のほか，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます．どうぞご期待ください．

Facebook ページやメーリングリストの登録は，随時，受け付けています．ぜひご登録ください．

◯若手活性化委員会 Facebook　https://www.facebook.com/jssewakate/

◯JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL　https://goo.gl/tClQb4

若手研究者，「初心」を語る

本号から「若手活性化委員会だより」の中に，新たなコーナーを設けることに致しました．このコーナーでは，研究活動における「初めての体験」に焦点をあて，若手研究者が見た世界や感じたことについて，発信していく予定です．

「初心忘るべからず」という言葉は，「学び始めた当時の未熟さや経験を忘れてはならない」（広辞苑，第六版）という意味で用いられています．これは世阿弥の『花鏡』が由来といわれますが，『花鏡』ではこのあと「この句，三箇条の口伝あり」という言葉が続きます．その一つが，「時々の初心忘るべからず」というものです．現在もひとつの初心なのだという自覚をもち，「今の初心」を決して忘れぬよう肝に銘じなくてはならないと世阿弥は説きます．

若き研究者たちの瑞々しい文章を通して，読者の皆様がそれぞれの「初心」に思いを寄せるきっかけをご提供できれば幸いです．

（若手活性化担当理事：舟橋友香）

若手の同士よ，海を渡ろうぜ

九州大学未来人材育成機構・長沼祥太郎

2023 年 8 月 28 日から 9 月 1 日に，ESERA2023 (The European Science Education Research Association)がイスタンブール（トルコ）にて開催された．以下，その参加を通して感じたことを述べたい．

「国際学会は面白い．成長できる．楽しい．が，辛い時間もある．」

これが，私の率直な感想である．実は，海外での国際学会へのまともな参加は今回が初めてだった．厳密には，2016 年に日本で開催された EASE（発表あり），2021 年にオンラインで開催された NPSE, ESERA, ASERA（全て発表あり），そして 2023 年にカナダで開催された ISLS（発表なし）に参加をしている．ただし，いずれも，海外での対面発表ではなかった．しかし，今回は，現在進行中の大規模な国際共同調査ROSES*に関して国際チームでシンポジウムを開くこととなり，私は日本チーム代表として発表をする役目があった．

学会中，今回私は，できる限り積極的に，海外の研究者とコミュニケーションを取ることを意識した．

結果，5 日間で約 30 人の研究者と話をすることができた（挨拶程度は除く）．国別の人数内訳は，以下の通り．イギリス（1），イタリア（3），インド（1），エストニア（2），オーストラリア（1），ジョージア（2），スウェーデン（5），ドイツ（4），トルコ（3），パキスタン（1），ポルトガル（2），南アフリカ（1），そして中国（2）．なお，このうち，向こうから話しかけてくれたのは 3 人くらいで，9 割はこちらからコミュニケーションを始めた．アジア人の男性に，向こうから積極的に話しかけてくれるほど，この世界は甘くないようだ．1 人で会場をさまよう時間もあった．これは，辛い経験であった．コミュニケーションはこちらから仕掛けないといけない．これは，勇気がいることである．そして僕はあまり得意ではない．が，トライしてみた．結果，いろんな人といろんな話をすることができた．

今回得た学びを以下に書く．1 つ目．国際的なコミュニケーションにおいて大事なのは，うなずきではなく，発言．その場に情報を加えて，自分の価値を，プレゼンスを示すこと．待っていても自分の順番なんて回ってこないので，自分から仕掛けていくことが必要．話題についていけないなら，話題を変えて，主導権をこちらが握ればいい．

2 つ目．海外では，Early Career Researcher（博士課程学生や助教など）が国際学会での発表を重視しているようだ．中には拙い発表もあるし，英語が下手な人もいる．しかし，彼らはこの場で発表すること自体に価値を感じているようで，発表後，指導教員と喜びあう姿が見られた．早くからこういう場に来て，他の国の研究者と知り合う．知り合った人の発表を学会中に聞きに行き，帰ってから論文を読む．そして，また学会で再会する．そして彼らが，徐々にコミュニティの中心に進んでいく．そういう良いサイクルがあるように思う．

3 つ目．参加ではなく，発表を行うことが重要．「あなたは今回発表あるの？」は話題になりやすい．そこで Yes と言えれば，そこから研究の話ができる．そして大体の会話は，「面白そうだね．時間があったら見にいくよ．名刺をくれるかい？」となり，これであなたは相手に記憶される．ただし，プレゼンの質が重要ということもわかった．わかりやすい発表，素晴らしい発表には賞賛の大きな拍手が起こる．視覚的にわかり，聴衆を引きつけるために，発表に特化した練習をする必要がある．

次の ESERA はデンマークで 2025 年に開催される．私は今回，国際的に日本のプレゼンスをあげたいと思った．アメリカからは Krajcik，オーストラリアからは Treagust や Tytler が来ている．彼らは，今も研究に熱心で，国際学会という知的な場を楽しんでいる．彼らは，かっこいい．彼らのように，私はなりたい．だからこそ，帰国した今，国際ジャーナルやプロシーディングズをバンバン書いて，日本の Naganuma を認識させたいと思う（実際，IJSE に今年通したおかげで，Treagust 教授は僕の名前に見覚えがあったようだ）．今回の ESERA2023 は，そんな大志を抱かせてくれる，大変有意義な機会になった．

以下，詳細版：https://note.com/shotaro_naganuma/n/n8481f982ba64
*ROSES：https://www.miun.se/en/Research/researchgroups/roses/



シンポジウム後の ROSES メンバー



Treagust 教授との一枚

編集委員会だより

特集のお知らせ（再掲）

編集委員会では，下記の主旨で，「科学教育研究」第 48 巻第 2 号での特集を企画します．研究論文，総説，展望，資料，プラザ，全ての種別の原稿を募集いたします．ふるってご投稿のほどお願い申し上げます．

なお，投稿規定により，「科学教育研究」への投稿論文は，筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので，その点ご注意ください．

編集委員長 青山和裕
特集編集部会長 木村優里

記

特集名：「ウィズコロナ社会に求められる新しい科学教育の挑戦」

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって，私たちは未だ嘗てない状況下におかれ，大きな制限や変化を強いられることとなった．こうした制限や変化は，社会や日常生活のみならず，教育場面においても甚大な影響をもたらした．本学会では，こうした状況への対応を喫緊の課題としてとらえ，特集「コロナ禍における科学教育」を企画し，コロナ禍の渦中における科学教育の実践的な取り組みを蓄積・共有した．そして今，徐々にウィズコロナ社会を見据える時期に差し掛かり，これからの新しい社会の学び方や働き方に応じた科学教育が求められている．

また，こうした社会の変化は，新型コロナウイルス感染症の影響のみならず，最先端の科学技術の急速な発展などによってますます加速し，これからは不確実性や複雑性が増していく時代となることが見通されている．これは，一時的なものではなく，これから迎えるウィズコロナ社会の特質であるといえるだろう．したがって，こうしたウィズコロナ社会における変化の中に，これからの時代を切り拓いていく新しい科学教育の本質を見いだし，そのための科学教育研究に挑戦していく必要があるのではないだろうか．

実際に，こうした状況に呼応するかのように，近年の科学教育研究においては，STEM/STEAM 教育，統計的問題解決，データ活用，NOS，ICT 活用，CBT，自己調整学習，個別最適な学びと協働的な学び，エージェンシー，レジリエンス，意思決定能力，教員養成及び教員研修，科学教育人材養成，カリキュラム・オーバーロード，幼小連携，ギフテッド教育，科学才能教育，多様なニーズに応じる科学教育，ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン，ELSI，トランス・サイエンス，リスク・コミュニケーションなど，さまざまな研究課題が顕在化し，注目が集まっている．こうした多様なテーマの中から，この次の科学教育方針の要を見いだし，位置づけ，提案していくこともまた，学会として取り組むべき活動であると考える．

このような背景を踏まえ，本特集では，特集テーマを「ウィズコロナ社会に求められる新しい科学教育の挑戦」とし，従来の科学教育の枠組みにとどまらない挑戦的な論文を募集する．そして，本特集の趣旨に鑑み，科学教育研究で取り組むべき新たな課題や内容，これまでの伝統的な研究課題の新しい切り口，既にその重要性が認識されつつもまだその骨子が不明瞭であり一層進展させるべき課題など，科学教育研究の立場からの新しい提案につながるような多様な論文が投稿されることを期待している．

なお，本特集の射程は広範に及ぶことが想定される．そのため，編集委員会の委員を中心とした特集編集部会を構成し，必要に応じてそれ以外の特集編集部会委員を配置する．

特集編集部会の構成メンバー

部会長：木村優里（明治学院大学）

副部会長：青山和裕（愛知教育大学），御園真史（島根大学）

特集編集部会委員：石橋　直（福岡教育大学），今井　泉（東邦大学），岩田耕司（福岡教育大学），大浦弘樹（東京理科大学），岡本紗知（大阪大学），加納　圭（滋賀大学），小松孝太郎（筑波大学），標葉靖子（実践女子大学），田中義久（弘前大学），長南幸安（弘前大学），畠山　久（東京工業大学），服部裕一郎（岡山大学），東原貴志（上越教育大学），久坂哲也（岩手大学），人見久城（宇都宮大学），福井智紀（麻布大学），増田伸江（岩手大学），三好美織（広島大学），向　平和（愛媛大学），山口悦司（神戸大学），山中真悟（福山市立大学），など

事前申込締切：2023 年 9 月 30 日

＊査読プロセスを円滑に進めるため，特集は投稿前に「事前申込」を設けております．投稿を予定している方には誠にお手数ですが，著者名・所属，タイトル，論文種別，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください．事前申込せずに投稿する場合は，投稿締め切りまでにご投稿ください．

投稿受付開始：　2023 年 5 月 1 日

投稿締め切り：　2023 年 10 月 31 日

＊特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順 6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください．

＊査読は，10 月 1 日以降，順次開始します．

発刊予定：2024 年 6 月（48 巻 2 号）

特集のお知らせ

編集委員会では，若手活性化委員会と連携し，下記の主旨で「科学教育研究」第 48 巻第 4 号での特集を企画します．研究論文，総説・展望，資料，プラザ，全ての種別の原稿を募集いたします．ふるってご投稿のほどお願い申し上げます．

なお，投稿規程により，「科学教育研究」への投稿論文は，筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります．また，この特集には投稿条件が設定されています．その点ご注意ください．

編集委員長　青山和裕
特集編集部会長　小松孝太郎
若手活性化委員会委員長　山本輝太郎

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として，また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として，若手会員を対象とした特集（以下，若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが 2017 年に始まった．2023 年で 7 回目となる．これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し，『科学教育研究』第 42〜46 巻各第 4 号に，多くの若手会員の研究成果を掲載してきた．2023 年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と，研究成果の公表機会の提供を行う．

前々回の 2021 年の若手特集では，これまでの若手特集の実施体制をより持続可能な仕方で「進化」させるために，新しい組織編成を行った．今回の 2023 年の若手特集では，これを継承しつつ，次のように組織を編成する．(1) 若手活性化委員会の下部組織として，サブミッション・アドバイザリーボードを設置する．(2) 特集編集部会は，過去の若手活性化委員会構成員および後述の若手特集の投稿条件 (1) を満たす会員を中心に組織する．

1 点目について，若手活性化委員会のサブミッション・アドバイザリーボードは，若手特集への投稿希望者や投稿するかどうかを思案している若手会員への助言を組織的に実施するものである．若手活性化委員会の構成員がサブミッション・アドバイザリーボードの構成員となることで，若手特集に関わる 3 点の取り組み，1：若手会員の研究会発表時に論文投稿に向けた建設的なコメントを行うこと，2：論文投稿に向けた若手会員からの相談を受けること，3：本特集への論文投稿を促進すること，をより一層充実させることをねらっている．若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザリーボードを設置するという前々回からの新しい試みによって，若手会員の研究活動をこれまで以上に支援することを意図している．2 点目は，サブミッション・アドバイザリーボードにおける助言者と若手特集における査読者の重複を避けつつ，若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展

のための特集とすることに加えて，若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげる方策である．

なお，若手特集への投稿条件は，今回の 2023 年の若手特集においても，これまでの若手特集における投稿条件を継承する．若手会員への支援を積極的に提供するために，若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））での研究発表が若手特集の投稿条件となっている．また，研究会での研究発表だけでなく，筆頭著者が「若手」であることも投稿条件である．日本学術振興会は令和 3 年度科学研究費助成事業への公募から若手研究への応募資格を博士学位取得後 8 年未満の研究者のみに変更したが，若手特集はこれに準じない．学位をもたない 40 歳以上の会員であっても，学籍を有していれば若手特集への投稿資格を有する．本若手特集は，より重要性の増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり，そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指す．

特集編集部会の構成メンバー

部会長：小松孝太郎（筑波大学）

副部会長：川崎弘作（岡山大学）

特集編集部会委員：（調整中）

若手活性化委員会　サブミッション・アドバイザリーボードの構成メンバー

山本輝太郎（金沢星稜大学）［委員長］，標葉靖子（実践女子大学）［副委員長］，長沼祥太郎（九州大学），岡部舞（大阪教育大学）［以上，幹事］，荒谷航平（北海道教育大学），古賀竣也（活水女子大学），下村岳人（島根大学），山崎美穂（帝京大学），岡本紗知（大阪大学），大谷洋貴（大妻女子大学），中村謙斗（東京理科大学大学院／東京学芸大こども未来研究所），森田大輔（第一工科大学）［以上，委員］，舟生日出男（創価大学）［顧問／相談役］，雲財寛（東海大学），舟橋友香（奈良教育大学）［理事］ほか

投稿条件

以下の（1）～（3）の 3 点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます．これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては，一般論文としての査読対象とさせていただきます．あらかじめご承知おきください．

（1）以下の（a），（b），（c）のいずれかを満たす学会員が，投稿論文の筆頭著者となっていること．

（a）投稿締切日時点で，39 歳以下である．

（b）投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．

（c）投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．

（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

（2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））で，筆頭著者として研究発表を行っていること．

（3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること.

事前申込締切：2024 年 2 月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため，事前申込を必須とします．投稿を予定している方は大変お手数ですが，メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし，以下の事前申込内容を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください.

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込
・著者名・所属：
・仮タイトル：
・論文種別：
・E-mail アドレス：
・電話番号：
・連絡先住所：
・投稿条件（1）について：
※満たしている項目の［ ］内に●を記入してください.
［ ］(a) 投稿締切日時点で，39 歳以下である.
［ ］(b) 投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している.
［ ］(c) 投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である.（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む.

---（事前申込内容ここまで）

投稿受付開始：2024 年 1 月 1 日
投稿締切： 2024 年 3 月 31 日

＊特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください.
＊投稿論文には，日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします.（執筆要領 4.(2)参照）
＊査読は，投稿締め切り後に開始します.

発刊予定：2024 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文としての査読を継続いたします.

以上

「科学教育研究」編集状況報告

１．新規投稿論文（2023.5.1～2023.8.31）：30 編

【内訳】

和文 29 編，英文 1 編

２．査読中論文（2023.8.31 現在）：32 編

【内訳】

担当編集委員選出中：2 編

査読者選出中：2 編

査読中（1 回目）：9 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：3 編

改訂稿待ち：3 編

査読中（2 回目）：10 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：1 編

編集委員長による最終判定中：2 編

３．掲載決定論文（2023.5.1～2023.8.31 現在）：15 編

【内訳】

研究論文：11 編

総説・展望：1 編

資料：3 編

プラザ：0 編

【合計】

47-3 号：7 編（通算 7 編）

47-4 号：8 編（通算 8 編）

(2) 投稿状況及び掲載決定状況の推移

投稿状況及び掲載決定状況の推移（2020 年 7 月～2023 年 8 月）は，下記の通りである．

（2023年8月31日　現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数（見なし取り下げを含む）	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	取り下げ
2020年　7月	8	0	33	0	4 (44-3) 2 (44-4)	0 (44-3) 0 (44-4)	0 0		2	0
2020年　8月	9	0	33	0	4 (44-4) 0 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		4	1
2020年　9月	9	0	30	0	8 (44-4) 0 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		4	0
2020年　10月	15	0	38	0	2 (44-4) 1 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		3	1
2020年　11月	5	0	34	0	4 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2020年　12月	6	0	28	0	2 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		10	0
2021年　1月	8	0	27	0	1 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2021年　2月	4	0	26	0	0 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		2	0
2021年　3月	11	0	23	0	7 (45-2) 0 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		7	0
2021年　4月	14	0	28	0	1 (45-2) 2 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		6	0
2021年　5月	6	0	25	0	0 (45-2) 3 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	2 0		6	0
2021年　6月	4	0	23	0	2 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	0
2021年　7月	8	0	27	0	2 (45-3) 1 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		1	0
2021年　8月	3	0	25	0	0 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	1
2021年　9月	3	0	22	0	0 (45-3) 3 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		3	0
2021年　10月	6	0	18	0	1 (45-4) 2 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		6	1
2021年　11月	13	0	29	0	0 (45-4) 0 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		2	0
2021年　12月	6	0	30	0	2 (46-1) 0 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		3	0
2022年　1月	6	0	24	0	1 (46-1) 2 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		9	0
2022年　2月	5	0	24	0	2 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		3	0
2022年　3月	17	0	29	0	5 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　4月	15	0	38	0	0 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　5月	7	0	40	0	0 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		4	0
2022年　6月	8	0	44	0	1 (46-3) 0 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		3	0
2022年　7月	4	0	31	0	1 (46-3) 7 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		9	0
2022年　8月	11	0	28	0	0 (46-3) 4 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		8	1
2022年　9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		2	0
2022年　10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		6	1
2022年　11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		4	1
2022年　12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		2	0
2023年　1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		9	0
2023年　2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		3	0
2023年　3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	1 (47-2) 0		8	0
2023年　4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	2 (47-2) 0		4	1
2023年　5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	0 0		11	2
2023年　6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	0 0		4	0
2023年　7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	0 0		3	1
2023年　8月	7	0	32	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	0 0		7	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 264 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 森田裕介（早稲田大） 大貫麻美（白百合女子大）

委　　員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 雲財　寛（東海大）
稲田結美（日本体育大） 黒田友貴（静岡大） 江草遼平（千葉商科大）
増田有紀（東京成徳大） 岡部　舞（大阪教育大）

幹　　事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail：*jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail：*jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会